

3 専門分野

授業科目	全部床義歯技工学概論	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	1年次 4月～7月				
			① 阿座上 遼子	時間数	30						
目的と目標	無歯顎の補綴治療における有床義歯技工学の意義と目的を理解し、全部床義歯の構造と特性を理解する 1 有床義歯技工学の意義と目的を説明できる 2 有床義歯の特徴と適応症を列挙できる 3 全部床義歯の構成要素を説明できる 4 全部床義歯の維持、安定および支持について説明できる 5 全部床義歯の製作順序を説明できる 6 模型上の解剖学的ランドマークを列挙できる 7 全部床義歯の印象採得について理解できる 8 全部床義歯の咬合採得について理解できる 9 ゴシックアーチ描記法の目的を述べるができる										
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員						
1, 2	有床義歯技工学概論	有床義歯とは 有床義歯技工学の意義と目的・種類 固定性補綴物（ブリッジ）との相違		講義	外部講師 (阿座上遼子)						
3, 4	有床義歯技工に関連のある生体についての基礎知識	形態的・機能的・審美的基礎知識 下顎位と下顎運動についての基礎知識									
5, 6	全部床義歯の特性	有床義歯技工に伴う生物学的事項 全部床義歯の構成要素									
7, 8	全部床義歯の製作順序	全部床義歯の口腔内での維持、安定 歯科診療所と歯科技工所における作業の関連									
9, 10	全部床義歯の印象採得に伴う技工作業	無歯顎・無歯顎の印象とトレー 精密印象と作業用模型									
11, 12	全部床義歯の咬合採得に伴う技工作業	咬合床製作のための作業用模型の処理 咬合床 全部床義歯に用いられる咬合器 作業用模型の咬合器装着									
13, 14	まとめ	咬合器の調整 ゴシックアーチの描記装置の取り付け									
15	試験							試験			
評価方法		筆記試験									
参考文献と資料		最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（全国歯科技工士教育協議会編）									
事前準備や受講要件等		必要に応じてプロジェクターを準備する									
☆担当教員の実務経験		① 歯科医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする									

授業科目	全部床義歯技工学各論	担当教員	専任教員☆	単位数	1	時期	1年次 9月～10月
			① 北川 洋哉 ② 鷺見 明香	時間数	30		
目的と目標	全部床義歯の製作順序を理解する 1 個人トレーの目的を述べることができる 2 咬合床の役割を述べるができる 3 咬合床製作に必要な作業用模型の処理を説明できる 4 作業用模型の咬合器への装着方法を列挙できる 5 ゴシックアーチ描記装置の記録床への取り付け方法を説明できる 6 全部床義歯の人工歯排列方法を説明できる 7 全部床義歯の歯肉形成の目的を述べるができる 8 全部床義歯の蠟義歯埋没の種類と方法を説明できる 9 義歯床用レジンの重合法の種類と特徴を説明できる 10 咬合器再装着の方法を説明できる 11 人工歯の削合の目的と方法を説明できる 12 研磨の目的と方法を説明できる						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2 3, 4 5, 6	全部床義歯の印象採得に伴う技工作業 咬合採得に伴う技工作業	無歯顎の印象とトレー 個人トレーの製作・ボクシング 咬合床の製作 咬合器装着・咬合器の種類 ゴシックアーチ描記板の設定 人工歯の種類		講義	専任教員 (北川洋哉)		
7, 8 9, 10	全部床義歯の人工歯排列と歯肉形成 全部床義歯の埋没と重合	人工歯・人工歯排列 歯肉形成・蠟義歯の試適 埋没の前準備 埋没・流蠟・義歯床用レジンの重合			専任教員 (鷺見明香)		
11, 12 13, 14 15	全部床義歯の咬合器への再装着、削合および研磨 修理 試験	人工歯の削合 研磨 リベース・リライン・義歯の破折		演習 試験			
評価方法	筆記試験 授業の理解度を確認するために小テストを実施（評価には含まれないが、理解度が低い場合は追加課題を科すことがある）						
参考文献と資料	最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（全国歯科技工士教育協議会編） スライド資料などの配布資料						
事前準備や受講要件等	必要に応じてプロジェクターを準備する 演習に使用する模型を準備する						
☆担当教員の実務経験	① 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ② 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						

授業科目	無歯顎の印象採得に関わる歯科技工	担当教員	専任教員☆ ①鷺見 明香	単位数	1	時期	1 学年 4 月～7 月
				時間数	45		
目的と目標	全部床義歯の製作手順を理解し、印象採得から咬合器装着までの要領および注意事項を理解する 1 個人トレーの製作ができる 2 作業用模型を製作できる 3 既製咬合床を製作できる 4 作業用模型を咬合器に装着できる						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2	模型作製	模型注入・模型調整		実習	専任教員 (鷺見明香)		
3, 4	常温重合レジンの圧接	外形線の記入・レジンの圧接					
5, 6		外形の調整・柄の付着					
7, 8		レジン表面の研磨・維持部の形成					
9, 10		コンパウンドの固着					
11, 12		研磨・完成					
13, 14	ボクシング						
15, 16	作業用模型の製作	外形線の記入・ポストダム					
17, 18	上下顎咬合床の製作	既製咬合床の調整					
19, 20							
21, 22	咬合器装着	上下顎咬合器装着					
23	評価	評価・振り返り		評価			
評価方法	各実習完成物および基本的実習態度により評価をする						
参考文献と資料	最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（全国歯科技工士教育協議会編） 有床義歯技工学 実習の手引き						
事前準備や受講要件等	必要に応じてプロジェクターを用意する 実習レポートの作成有						
☆担当教員の実務経験	① 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						

授業科目	部分床義歯技工学概論	担当教員	外部講師☆ ①加藤 賢也	単位数	2	時期	1 学年 4 月～7 月
			専任教員☆ ②北川 洋哉 ③野津 尚哉	時間数	60		
目的と目標	一部歯牙が欠損した口腔の変化を理解し、形態・機能および審美性を回復する部分床義歯の概要を理解する 1 生体における歯の欠損による障害を理解できる 2 部分床義歯の特性を理解することができる 3 部分床義歯の構成および製作手順が理解できる 4 診療室でおこなわれる作業を理解できる 5 歯科技工室で行われる工程と注意点を理解できる						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2	部分床義歯の特性	部分床義歯の構成要素 残存歯、欠損の分布状態による分類 咬合圧の支持様式・支持域による分類 義歯の支台装置・目的別による分類		講義	外部講師 (加藤賢也)		
3, 4 5, 6 7, 8 9, 10 11, 12 13, 14 15, 16 17, 18	部分床義歯の製作順序 部分床義歯の構成要素	歯科診療所と歯科技工所における作業の関連 支台装置 連結子（連結装置） 義歯床 人工歯		講義 演習	専任教員 (北川洋哉) (野津尚哉)		
19, 20 21, 22 23, 24	義歯の設計と支台装置	義歯の着脱方法 サベラインの描記 レスト付二腕鉤（線鉤と鑄造鉤） 支台装置の設計 リングクラスプ、ローチクラスプ、ヘアピンクラスプなど 連結子と義歯床 義歯の設計手順 義歯の動きと安定		講義	外部講師 (加藤賢也)		
25, 26 27, 28 29, 30	部分床義歯の印象採得に伴う技工作業 部分床義歯の咬合採得に伴う技工作業 試験（1 時間） まとめ（1 時間）	印象採得に伴う技工作業 作業用模型の製作・オルタードキャスト法 咬合採得に伴う技工作業 咬合器への作業用模型の装着		講義 試験 講義	外部講師 (加藤賢也)		
評価方法		筆記試験					
参考文献と資料		最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（全国歯科技工士教育協議会編） 講義に使用するスライドは資料を配布する					
事前準備や受講要件等		必要に応じてプロジェクターと模型を準備する					
☆担当教員の実務経験		① 歯科医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ② 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ③ 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする					

授業科目	歯冠修復技工学概論	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	1年次 4月～6月
			①村瀬 由起	時間数	30		
目的と目標	<p>歯冠修復物およびブリッジの意義と目的を理解する。人工臓器として必要な修復物の知識と製作を理解して、歯冠の修復と残存歯および口腔機能の保存を考えた修復物を理解する</p> <p>1 歯牙の部分欠損に対して製作する歯冠修復物の特性および製作法を理解できる</p> <p>2 歯の色を理解し、審美性の重要性を理解できる</p> <p>3 歯牙の一部欠損による口腔への影響を考え、その機能を改善する補綴物について理解できる</p> <p>4 ポンティックの粘膜との接触や清掃性の影響について理解できる</p> <p>5 印象採得と模型の製作を体験する</p>						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2	歯冠修復技工学概論	歯冠修復技工学の意義と目的 臨床的価値		講義	外部講師 (村瀬由起)		
3, 4	クラウンの概要と種類	クラウンの概要 部分被覆冠・全部被覆冠・ポストクラウン					
5, 6	ブリッジの概要と種類	ブリッジの概要		実習			
7, 8		ブリッジの特徴・構成要素・種類					
9, 10	印象採得と模型の作製	研究用模型の作製		試験			
11, 12	クラウンおよびブリッジの具備条件	生物学的・構造力学的・化学的・審美的要件					
13, 14	試験（1時間） まとめ（1時間）	印象採得		講義			
15		模型材の注入					
評価方法	筆記試験 実習は評価に含まれない						
参考文献と資料	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（全国歯科技工士教育協議会編）						
事前準備や受講要件等	必要に応じてプロジェクターと模型を準備する 資料提示装置を準備する						
☆担当教員の実務経験	① 歯科医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						

授業科目	歯冠修復技工学各論 I	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	1年次 7月～9月
			①村瀬 由起	時間数	30		
目的と目標	<p>歯冠修復物およびブリッジの意義と目的を理解する。人工臓器として必要な修復物の知識と製作を理解して、歯冠の修復と残存歯および口腔機能の保存を考えた修復物を理解する</p> <p>1 歯牙の部分欠損に対して製作する歯冠修復物の特性および製作法を理解できる</p> <p>2 歯の色を理解し、審美性の重要性を理解できる</p> <p>3 歯牙の一部欠損による口腔への影響を考え、その機能を改善する補綴物について理解できる</p> <p>4 ポンティックの粘膜との接触や清掃性の影響について理解できる</p>						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2	クラウンおよびブリッジの製作順序	臨床ステップの概要 印象採得 研究用模型 トレー		講義	外部講師 (村瀬由起)		
3, 4		支台築造 プロビジョナルクラウン シェードマッチング					
5, 6		作業用模型 咬合器装着 ワックスアップ					
7, 8		埋没・鋳造作業 連結法 調整 研磨					
9, 10	ポストクラウン	陶材の築盛・焼成クラウンの不具合の原因					
11, 12	ブリッジ	意義・特徴・適応用途 支台装置 ポンティック 連結法					
13, 14	CAD/CAM システム インプラント	システムの構成 インプラントの概要 インプラントと生体 インプラントの種類					
15	試験 (1 時間) まとめ (1 時間)	上部構造製作技工の注意点					
評価方法	筆記試験						
参考文献と資料	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学 (全国歯科技工士教育協議会編)						
事前準備や受講要件等	必要に応じてプロジェクターと模型を準備する 資料提示装置を準備する						
☆担当教員の実務経験	① 歯科医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						

授業科目	被覆冠に関わる歯科技工	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	1年次 4月～7月	
			①松永 悟	時間数	45			
目的と目標	歯冠修復物の種類を理解し、全部金属冠の製作時の要領と注意事項を理解する 1 ロストワックス法による鋳造技術を説明できる 2 作業用模型を製作できる 3 咬合器に作業用模型を装着できる 4 全部金属冠製作に必要な技術を理解できる 5 歯科技工に必要な取り組みができる							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員			
1, 2	基本実習	ワックスインストルメントの操作法		実習	外部講師 (松永 悟)			
3, 4	模型製作	歯型での全部鋳造冠の製作 1次石こうの注入 ダウエルピンの植立						
5, 6	全部金属冠の製作	2次石こうの注入・模型調整		評価				
7, 8		歯型調整・咬合器装着						
9, 10		蝟型採得						
11, 12								
13, 14		スプルー線植立・埋没						
15, 16		鋳造						
17, 18		適合						
19, 20		研磨						
21, 22		完成	完成					
23		評価						
評価方法	実習完成物および基本的実習態度により評価をする							
参考文献と資料	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（全国歯科技工士教育協議会編） 歯冠修復技工学 実習の手引き							
事前準備や受講要件等								
☆担当教員の実務経験	① 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする							

授業科目	テンポラリークラウンに関わる歯科技工	担当教員	専任教員☆ ① 鷺見 明香	単位数	1	時期	1年次 10月～1月
				時間数	30		
目的と目標	支台築造体と暫間被覆冠の製作過程を理解するために作業用模型の製作から完成までの技工技術を修得する 1 歯型固着式模型が調整できる 2 作業用模型の保存の重要性が理解できる 3 支台築造体を製作できる 1) ポストの蠟型採得ができる 2) 前装冠を想定した支台形態が理解できる 3 常温重合レジンによるテンポラリークラウンの製作手順が理解できる 1) シリコンコアによるテンポラリークラウンの製作ができる 2) 常温重合レジンの取り扱いができる 4 実習を振り返り、レポートが作成できる						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2	模型作製	歯型調整・咬合器装着		実習	専任教員 (鷺見明香)		
3, 4		合釘圧接・蠟型採得 (模刻)					
5, 6		シリコンコア採得・蠟型採得 (支台形成)					
7, 8		スプルー線植立・埋没・鋳造					
9, 10		適合・研磨・ブロックアウト					
11, 12	テンポラリークラウンの製作	レジン築盛・形態修正		評価			
13, 14		研磨					
15	評価	完成 評価と振り返り					
評価方法		各実習完成物とレポート課題および基本的実習態度により評価をする					
参考文献と資料		最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学 (全国歯科技工士教育協議会編) 歯冠修復技工学 実習の手引き					
事前準備や受講要件等		必要に応じてモニターを用意する 実習レポートの作成有					
☆担当教員の実務経験		① 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする					

授業科目	前装冠に関わる歯科技工	担当教員	外部講師☆ ①安達健太郎	単位数	1	時期	1 学年 12 月～3 月					
			専任教員☆ ② 野津 尚哉	時間数	45							
目的と目標	歯冠修復物の種類を理解し、レジン前装冠の製作時の要領と注意事項を理解する 1 前装冠に求められる作業用模型を製作できる 2 レジン前装冠の金属フレーム形態が理解できる 3 レジン維持装置の付与が適切にできる 4 顕微鏡を使用して金属フレームの調整ができる 5 レジンと金属の接着ができる 6 前装冠に適したレジンの築盛操作ができる 7 金属とレジンの移行部が滑らかで明確にできる 8 一人で埋没・鋳造操作ができる											
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員							
1, 2	模型作製 レジン前装金属冠の製作	ダウエルピン植立・二次石こう注入		実習	外部講師 (安達健太郎) 専任教員 (野津尚哉)							
3, 4		歯型調整・咬合器装着										
5, 6		蠟型採得										
7, 8		石こうコア採得										
9, 10		窓開け・維持装置付与										
11, 12		スプルー線植立・埋没										
13, 14		鋳造・適合										
15, 16		鋳造体修正・粗研磨										
17, 18		レジン築盛										
19		形態修正										
20, 21		研磨										
22, 23		完成										
		評価						評価				
評価方法		各実習完成物および基本的実習態度により評価をする										
参考文献と資料		最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（全国歯科技工士教育協議会編） 歯冠修復技工学 実習の手引き										
事前準備や受講要件等		模型を一次石こう注入まで準備する										
☆担当教員の実務経験		① 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ② 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする										

授業科目	原型製作技術	担当教員	専任教員☆	単位数	1	時期	1年次 11月～2月	
			① 北川 洋哉 ② 野津 尚哉	時間数	30			
目的と目標	<p>審美性を求められる前装冠製作過程のなかで重要な歯冠形態を学ぶために形態再現技術を修得する 天然歯の表面性状を学び、原型製作技術の評価法を習得する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 連続する前歯部歯冠形態の特徴を説明できる 2 歯型可撤式模型の特徴が理解できる 3 歯冠の基本3形態の特徴が理解できる 4 連続した前歯部歯冠形態を表現できる 5 歯の構造に合わせた製作手順で製作できる 6 連続した歯列の歯冠形態からスマイリングラインを観察できる 7 対称性のある歯冠形態を表現できる 							
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員			
1, 2	模型作製	模型製作・調整		実習	専任教員 (北川洋哉) (野津尚哉)			
3, 4	原型製作	歯列模型の観察方法 (調和した歯列形態) 反対側同名歯の観察法 デッサン		講義				
5, 6		ワックスアップ 構造からの盛り上げ手順		実習				
7, 8		ワックスアップ 顎運動と切縁形態						
9, 10		ワックスアップ						
11, 12		ワックスアップ 歯冠形態・表面性状						
13, 14		試験	試験					
15		評価	完成・評価と振り返り		評価			
評価方法		<p>実習完成物 (75%)、筆記試験 (15%) および基本的実習態度 (10%) により評価をする 提出物が期限に遅れた場合は減点の対象となる 筆記試験は、講義内容及び配布資料から出題される</p>						
参考文献と資料		<p>最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学 口腔・顎顔面解剖学 (全国歯科技工士教育協議会編)、歯冠修復技工学、歯の解剖学 実習の手引き 講義に必要な資料は配布する</p>						
事前準備や受講要件等		<p>各歯牙の形態的特徴を十分に理解して授業に臨む 必要に応じてプロジェクターを用意する</p>						
☆担当教員の実務経験	<ol style="list-style-type: none"> ① 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ② 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする 							

授業科目	連続する修復に関わる 歯科技工	担当 教員	専任教員☆ ① 鷺見 明香	単位数	1	時期	1年次 9月～10月
				時間数	45		
目的 と 目標	連続する全部金属冠の製作過程を理解するために作業用模型の製作から完成までの技工技術および 技工操作を修得する 1 連続する臼歯部形態を表現できる 2 顕微鏡を使用した技工技術を学ぶ 3 隣接・咬合コンタクトの調整ができる 4 固定ろう付け法による連結ができる 5 清掃性を考慮した形態が検討できる 6 授業の取り組みを自己評価できる						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2	模型作製	歯型調整・咬合器装着		実習	専任教員 (鷺見明香)		
3, 4	原型製作	蠟型採得					
5, 6							
7, 8							
9, 10							
11, 12		スプルー線植立・埋没					
13, 14	鑄造	鑄造・適合					
15, 16		コンタクト調整・粗研磨					
17, 18		石こうコア採得・埋没					
19, 20		鑲着					
21, 22	完成	研磨・完成					
23	評価	自己評価		評価			
評価方法	各実習完成物とレポート課題および基本的実習態度により評価をする						
参考文献 と資料	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学（全国歯科技工士教育協議会編） 歯冠修復技工学 実習の手引き						
事前準備や 受講要件等	被覆冠に関わる歯科技工の実習製作物および作業用模型を使用するため、被覆冠に関 わる歯科技工を履修したうえで、実習に出席する 必要に応じてプロジェクターを用意する 実習レポートの作成有						
☆担当教員 の実務経験	① 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						

授業科目	デジタル技術に関わる 歯科技工	担当 教員	外部講師☆ ① 堀 直介	単位数	1	時期	2年次 5月～7月
				時間数	30		
目的と目標	デジタル技術による全部金属冠の製作過程を理解するために器械による製作の技工操作を修得する 1 作業模型の読み取りができる 2 器械本体の操作をして症例に合わせて修復物を設計ができる 3 デジタル加工の特徴を理解できる						
回数	学習課題	内 容		方 法		担当教員	
1, 2 3, 4 5, 6 7, 8 9, 10 11, 12 13, 14 15	はじめに CAD/CAM システム モデリングソフト まとめ 試験	歯科技工用 CAD の構成 スキャナーと CAD ソフト 基本操作 製作基本情報の入力 模型のスキャニング 被覆冠の設計 3D モデリングの基本操作 STL の取 り扱い 操作演習 口腔内スキャナの基本 モデリングデータの応用		演習		外部講師 (堀 直介)	
評価方法	筆記試験・モデリングデータについて評価する						
参考文献 と資料	Blender (3D モデリングソフト)						
事前準備や 受講要件等	記録媒体 (USB) 必要に応じてプロジェクターを用意する						
☆担当教員 の実務経験	① 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						

授業科目	矯正歯科技工学	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	2年次 4月～6月				
			①浅井 農	時間数	30						
目的と目標	矯正治療の意義と特殊性を理解し、矯正歯科技工をおこなうのに必要な知識を理解する 1 矯正歯科治療の意義と目的を説明できる 2 矯正歯科治療における正常咬合と不正咬合について説明できる 3 矯正歯科技工に用いる器械・器具名と材料を列挙し、それらの特徴が理解できる 4 矯正歯科技工における基本的手技が理解できる 5 矯正用口腔模型の種類と特徴が説明できる 6 矯正装置の必要条件と分類を説明できる 7 各種動的矯正装置の目的と構成および製作法が理解できる 8 各種保定装置の目的と構成および製作法が理解できる										
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員						
1, 2	矯正歯科治療とは 矯正歯科技工学の意義と目的 正常咬合と不正咬合	矯正歯科治療とは 矯正歯科技工学の意義と目的 正常咬合 不正咬合（異常咬合）		講義	外部講師 (浅井 農)						
3, 4	矯正治療の進め方	矯正歯科治療の流れと歯科技工の関わり 症例分析・矯正診断 動的矯正治療・保定（静的矯正治療）		演習を含む 演習を含む 講義							
5, 6	矯正技工用器具と器械 矯正技工の基本的手技	矯正技工用器具と器械 矯正用線の屈曲 自在ろう付け 矯正用常温重合レジンの使用法									
7, 8											
9, 10	矯正装置製作法	舌側弧線装置 顎間固定装置 咬合挙上板 咬合斜面版 ホーレーの保定装置 アクチバートル（FK0） バイオネーター									
11, 12	矯正用口腔模型の製作 矯正装置の必要条件と分類	矯正用口腔模型の種類と特徴 矯正用口腔模型の製作法 矯正装置の必要条件・分類 ナンスのホールディングアーチ 可撤式拡大装置・固定式拡大装置 ヘッドギア・オトガイ帽装置・上顎前方 牽引装置 リップバンパー マルチブラケット装置 フレンケルの装置									
13, 14	保定装置	ホーレーの保定装置 ラップアラウンドリテーナー トゥースポジショナー スプリングリテーナー 下顎犬歯間リテーナー									
15	試験（1時間） まとめ（1時間）							試験 講義			
評価方法	筆記試験										
参考文献 と資料	最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学（全国歯科技工士教育協議会編）										
事前準備や 受講要件等	必要に応じてプロジェクターを準備する 演習用の模型を準備する										
☆担当教員 の実務経験	① 歯科医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする										

授業科目	矯正歯科に関わる 歯科技工	担当 教員	外部講師☆ ① 西垣 勲	単位数	1	時期	2年次 9月～11月
				時間数	30		
目的 と 目 標	矯正歯科技工物製作のために基本的手技を学ぶ 矯正歯科装置の目的およびその作用を理解し、製作時の注意事項を理解する 1 基本的手技の線屈曲ができる 2 自在鑲付けができる 3 矯正用レジンで矯正装置の床部を形成できる 4 舌側弧線装置を製作できる 5 ホーレーの保定装置を製作できる						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2 3, 4 5, 6 7, 8 9, 10 11, 12 13, 14 15	矯正技工の基本的手技 舌側弧線装置 ホーレーの保定装置	矯正用線の屈曲 自在ろう付け バンドの適合・チューブのろう着 主線の屈曲・ST ロックの脚部の屈曲 ろう着・研磨・完成 設計・接歯唇側線の屈曲 レジンの築盛・形態修正 評価		実習 評価	外部講師 (西垣 勲)		
評価方法	実習製作物（舌側弧線装置、ホーレーの保定装置）の評点および基本的実習態度により評価をする						
参考文献 と資料	最新歯科技工士教本 矯正歯科技工学（全国歯科技工士教育協議会編）						
事前準備や 受講要件等	必要に応じてプロジェクターを準備する 模型を準備する						
☆担当教員 の実務経験	① 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						

授業科目	小児歯科技工学	担当教員	外部講師☆	単位数	1	時期	1年次 11月～2月
			①辻 甫	時間数	15		
目的と目標	小児歯科の特徴を理解し、小児歯科技工を行うために必要な知識を理解する 1 歯・顎顔面の成長発育の過程を理解できる 2 小児の成長発育に合わせた小児歯科装置の特徴を理解できる 3 各種小児歯科装置の特徴を理解できる						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2	小児歯科技工概説 歯・顎・顔面の成長発育	乳歯列期の場合 混合歯列期の場合 成長発育段階と年齢 顎顔面の成長発育		講義	外部講師 (辻 甫)		
3, 4	小児の歯冠修復 咬合誘導装置の種類	歯と歯列の発育 小児の歯冠修復の特徴 小児の歯冠修復の種類 咬合誘導の概念 咬合誘導装置の種類					
5, 6	保劇装置	必要条件と分類 クラウンループ保隙装置 バンドループ保隙装置 ディスタルシュー保隙装置 舌側弧線型保隙装置 ナンスのホールディングアーチ 可撤保隙装置		試験			
7	スペースリゲイナー 口腔習癖除去装置 咬合誘導装置に用いる維持装置	目的・スペースリゲイナーの製作法 口腔習癖の種類 装置の種類 アダムス・シュワルツのクラスプ 唇側線・単純鉤 ボールクラスプ					
8	試験	試験					
評価方法	筆記試験						
参考文献と資料	最新歯科技工士教本 小児歯科技工学（全国歯科技工士教育協議会編）						
事前準備や受講要件等							
☆担当教員の実務経験	① 歯科医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						

授業科目	小児歯科に関わる 歯科技工	担当 教員	外部講師☆ ①辻 甫	単位数	1	時期	1年次 11月～2月				
				時間数	30						
目的 と 目標	固定式・可撤式保隙装置を理解するために製作方法と注意事項を理解する スペースリゲイナーを理解するために設計・製作時の注意事項を理解する 1 小児歯科の特性を理解した設計を理解できる 2 小児歯科装置とその維持装置を理解し、製作方法を身につける 3 完成した修復物を正しく分析・評価できる										
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員						
1, 2	クラウンループ	模型の製作・乳歯冠の適合		実習	外部講師 (辻 甫)						
3, 4		ループの屈曲									
5, 6		ろう着・研磨									
7, 8	可撤式保隙装置	唇側線・レストの屈曲									
9, 10		常温重合レジンの盛り上げ									
11, 12		人工歯排列・研磨									
13, 14	スペースリゲイナー	アダムスのクラスプ・スプリングの屈曲									
15		評価									
評価方法	各実習完成物（クラウンループ、可撤式保隙装置、スペースリゲイナー）で評価										
参考文献 と資料	最新歯科技工士教本 小児歯科技工学（全国歯科技工士教育協議会編）										
事前準備や 受講要件等	教本および配布された実習書を持参する										
☆担当教員 の実務経験	① 歯科医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする										

授業科目	全部床義歯に関わる 歯科技工	担当 教員	外部講師☆ ①後藤 郁哉	単位数	1	時期	2年次 9月～12月
			専任教員☆ ②北川 洋哉	時間数	45		
目的と目標	<p>有床義歯技工学など既習の基礎歯科技工を臨床と結びつけながら理解を深め、実践能力を養うために臨床的モデルによる症例をとおして歯科技工士としての必要な分析・計画・評価を身につける</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 患者情報と症例モデルの観察・分析ができる 2 維持を考慮した設計や咬合様式の特徴を実現できる実習計画が作成できる 3 審美性を考慮した上下顎全部床義歯を製作できる 4 適合精度を考慮したレジン床義歯の製作ができる 5 安定した上下顎全部床義歯の咬合様式を理解できる 6 実習内容を振り返り、学習内容をまとめて報告書を作成することができる 						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1,2 3,4 5,6 7,8 9,10 11,12 13,14 15,16 17,18 19,20 21,22 23	モデルの観察、分析 全部床義歯の製作	グループワーク 患者情報の分析 人工歯排列 歯肉形成・蠟義歯完成 フラスコ埋没 脱蠟・レジン填入・重合 掘出し・咬合器再装着・削合 研磨 完成・自己評価 評価・意見交換・指導		実習	外部講師 (後藤郁哉) 専任教員 (北川洋哉)		
評価方法	各実習完成物とレポート課題および基本的実習態度により評価をする 中間評価有り						
参考文献 と資料	最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（全国歯科技工士教育協議会編） 有床義歯技工学 実習の手引き						
事前準備や 受講用件等	咬合採得に関わる歯科技工で咬合器装着されたモデルを使用するため、咬合採得に関わる歯科技工を履修したうえで、実習に出席する						
☆担当教員 の実務経験	<ol style="list-style-type: none"> ① 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ② 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする 						

授業科目	咬合採得に関わる 歯科技工	担当教員	外部講師☆ ① 三輪 俊太 ② 安部 佐織 ③ 片桐 大佑	単位数	1	時期	2年次 4月～7月
			専任教員☆ ④ 北川 洋哉	時間数	45		
目的と目標	<p>有床義歯技工学など既習の基礎歯科技工の理解を深め、実践能力を養うために臨床的模型による症例をとおして必要な技術と知識および姿勢を身につける</p> <p>高齢者歯科学を学び、加齢に伴う口腔内及び全身の健康の変化と影響を理解する。また、口腔機能の回復と健康回復の関わりを学ぶ</p> <p>1 無歯顎模型の観察と分析ができる</p> <p>2 無歯顎の咬合床が製作できる</p> <p>3 部分欠損の顎堤における咬合採得において安定した咬合床を製作できる</p> <p>4 実習内容の振り返りができる</p> <p>5 高齢者歯科に関心が持てる</p> <p>6 加齢による全身及び口腔内組織の変化を理解できる</p> <p>7 口腔機能の回復と全身の健康のつながりと義歯の役割を理解できる</p>						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2 3, 4 5, 6 7, 8 9, 10 11, 12 13, 14 15, 16 17, 18 19, 20 21, 22 23	全部床義歯の咬合床 (1 症例・後期義歯製作) 高齢者歯科学 口腔機能と義歯の関わり 咬合採得 部分床義歯の咬合床 (1 症例) ノンメタルクラスプデン チャー まとめ	規格模型の製作 ブロックアウト・基礎床の製作 咬合堤の作製 高齢者歯科における役割 義歯の設計・咬合三角 咬合採得の重要性 咬合採得・咬合器装着 設計・サベージング ブロックアウト 基礎床の製作 咬合堤の作製 講義・設計 評価		実習 講義 実習 講義 評価	外部講師 (片桐大佑) 専任教員 (北川洋哉) 外部講師 (三輪俊太) (安部佐織) 外部講師 (片桐大佑) 専任教員 (北川洋哉) 専任教員 (北川洋哉)		
評価方法	各実習完成物とレポート・報告書および基本的実習態度について評価する85% 実習物の中間評価を行う 高齢者歯科については筆記試験有15%						
参考文献 と資料	歯科衛生士講座 高齢者歯科学 最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学 (全国歯科技工士教育協議会編) 歯冠修復技工学 実習の手引き						
事前準備や 受講要件等	授業は教室または歯科技工実習室で行う 必要に応じてプロジェクターまたは大型モニターを用意する 症例報告書または実習レポートの作成有						
☆担当教員 の実務経験	① 歯科医師として医療機関にお勤務した経験を生かした授業展開をする ② 歯科医師として医療機関にお勤務した経験を生かした授業展開をする ③ 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ④ 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						

授業科目	部分床義歯に関わる 歯科技工 I	担当 教員	外部講師☆ ①三浦 千景	単位数	1	時 期	2 年次 4 月～7 月
			専任教員☆ ②鷺見 明香	時間数	45		
目的と 目標	<p>有床義歯技工学など既習の基礎歯科技工の理解を深め、実践能力を養うために臨床的模型による症例をとおして必要な技術と知識および姿勢を身につける</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 残存歯・欠損部粘膜面など模型面の観察ができる 2 義歯設計の意図を患者情報に配慮した義歯の計画ができる 3 計画に沿った設計と方法で義歯の製作ができる 4 高融点合金による支台装置の製作ができる 5 流し込みレジンによる義歯の製作ができる 						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2 3, 4 5, 6 7, 8 9, 10 11, 12 13, 14 15, 16 17, 18 19, 20 21, 22 23	下顎部分床義歯の製作 義歯の適合性	模型観察 模型調整・咬合床製作 咬合床製作・咬合採得 咬合器装着、サベイング・設計 支台装置の製作 支台装置・連結子の製作 人工歯排列 歯肉形成・埋没前準備 コアの製作 脱蠟填入・重合 研磨 完成 評価		実習	外部講師 (三浦千景) 専任教員 (鷺見明香)		
評価方法	実習製作物とレポート・報告書および基本的実習態度について評価する						
参考文献 と資料	最新歯科技工士教本 有床義歯技工学 (全国歯科技工士教育協議会編) 有床義歯技工学 実習の手引き						
事前準備や 受講要件等	部分欠損の完成義歯に関わる歯科技工の内容を復習したうえで、実習に出席する 必要に応じて大型モニターを準備する 模型を準備しておく 症例報告書または実習レポートの作成有						
☆担当教員 の実務経験	<ol style="list-style-type: none"> ① 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ② 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする 						

授業科目	部分床義歯に関わる 歯科技工Ⅱ	担当 教員	外部講師☆ ① 秋田 裕明	単位数	1	時期	2年次 9月～12月
			専任教員☆ ② 北川洋哉	時間数	45		
目的と目標	<p>有床義歯技工学など既習の基礎歯科技工を臨床と結びつけながら理解を深め、実践能力を養うために臨床的模型による症例をとおして歯科技工士としての必要な分析・計画・評価を身につける</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 患者情報などを分析・検討して義歯の設計ができる 2 修理などメンテナンスを考慮した義歯を検討できる 3 義歯の維持安定を検討できる 4 審美性を回復できる 5 目的に合わせた製作方法を選択できる 6 実習内容の振り返りができる 						
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員		
1, 2 3, 4 5, 6 7, 8 9, 10 11, 12 13, 14 15, 16 17, 18 19, 20 21, 22	上顎部分床義歯の製作	患者情報の分析と義歯の設計 模型調整 咬合採得・咬合器装着 サベーイング・設計 支台装置の作製 連結子の作製・研磨 人工歯排列・歯肉形成 埋没前準備・下部埋没 埋没・脱蠟 填入・重合 研磨		実習	外部講師 (秋田裕明) 専任教員 (北川洋哉)		
23	評価と振り返り	完成・振り返り 評価		評価			
評価方法	実習完成物とレポートおよび基本的実習態度について評価する						
参考文献と資料	最新歯科技工士教本 有床義歯技工学（全国歯科技工士教育協議会編） 有床義歯技工学 実習の手引き						
事前準備や受講要件等	金属床義歯に関わる歯科技工、部分床義歯に関わる歯科技工Ⅰを履修したうえで、実習に出席する 各自情報アセスメントを実施し設計の準備をする 義歯の製作に必要な歯科技工技術、製作手順を確認して取り組む 設計のレポート、症例報告書の作成有						
☆担当教員の実務経験	① 歯科医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ② 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						

授業科目	金属床義歯に関わる 歯科技工	担当 教員	外部講師☆ ① 森島 大介	単位数	1	時期	2年次 4月～7月				
			専任教員☆ ② 北川洋哉	時間数	45						
目的と目標	有床義歯技工学など既習の基礎歯科技工の理解を深め、実践能力を養うために臨床的模型による症例をとおして必要な技術と知識および姿勢を身につける 1 金属床フレームによる義歯設計が理解できる 2 金属床フレームの製作手順と方法が理解できる 3 高融点合金による大型鋳造の埋没・鋳造ができる										
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員						
1, 2	模型の観察と分析	金属床義歯の特徴 合理的な義歯の設計		実習	外部講師 (森島大介) 専任教員 (北川洋哉)						
3, 4	模型作製	サベージング 設計									
5, 6		ブロックアウト・リリース 複印象									
7, 8		耐火模型の製作									
9, 10		ワックスアップ									
11, 12		スプルー線植立									
13, 14		埋没									
15, 16		鋳造									
17, 18		サンドブラスト スプルーカット									
19, 20		粗研磨・電解研磨									
21, 22		中研磨 仕上げ研磨									
23	振返り	人工歯排列 評価						評価			
評価方法	実習完成物とレポートおよび基本的実習態度について評価する 中間評価有り										
参考文献 と資料	有床義歯技工学 実習の手引き										
事前準備や 受講用件等	部分床義歯技工学概論、部分床義歯技工学各論の内容を復習したうえで、実習に出席する 設計案の提出 症例報告書または実習レポートの作成有										
☆担当教員 の実務経験	① 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ② 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする										

授業科目	支台築造に関わる 歯科技工	担当 教員	外部講師☆ ① 大橋 秀也	単位数	1	時期	2年次 4月～7月				
			専任教員☆ ② 野津 尚哉	時間数	45						
目的と目標	既習の歯冠修復技工学などの基礎歯科技工を臨床と結びつけながら理解を深め、実践能力を養うために臨床的模型による症例を行う 臨床底症例をとおして歯科技工士としての必要な技術と知識および姿勢を身につける 1 最終修復物の計画が理解できる 2 残存組織保護のために診断用ワックスアップを学ぶ 3 前歯部ブリッジ製作のための支台築造ができる 4 臼歯部支台築造ができる 5 ファイバーコアの製作ができる 6 プロビジョナルブリッジの製作ができる 7 実習内容の振り返りができる										
回数	学習課題	内 容		方 法	担当教員						
1, 2	作業用模型製作	作業用模型製作・歯型調整・咬合器装着		実習	外部講師 (大橋秀也) 専任教員 (野津尚哉)						
3, 4	支台築造	診断用ワックスアップ									
5, 6		シリコンコア製作・蠟型採得・埋没									
7, 8		鋳造・適合・研磨・完成									
9, 10	プロビジョナルブリッ	ブロックアウト・レジン築盛									
11, 12	ジの製作	形態修正									
13, 14		研磨・完成									
15, 16	ファイバーコアの製作	ファイバーの試適・レジンの築盛									
17, 18		適合・研磨・完成									
19, 20		臼歯部支台築造									
21, 22		評価						評価			
23											
評価方法	各実習完成物とレポートおよび基本的実習態度により評価をする										
参考文献と資料	最新歯科技工士教本 歯冠修復技工学 (全国歯科技工士教育協議会編) 歯冠修復技工学 実習の手引き インレー・コア・クラウンのコツとツボ										
事前準備や受講要件等	テンポラリークラウンに関わる歯科技工の内容を復習したうえで、実習に出席する実習レポートの作成有										
☆担当教員の実務経験	① 歯科医師として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ② 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする										

授業科目	歯科技工に関わる研究	担当教員	専任教員☆ ①北川 洋哉	単位数	1	時期	2年次 11月～12月
			専任教員☆ ②野津 尚哉	時間数	30		
目的と目標	専門職として自己研鑽の重要性を理解するために歯科技工における研究のプロセスを学ぶ 研究報告の進め方を学び、実際に研究の基礎を体感する 1 歯科技工における研究の重要性を理解できる 2 研究の進め方・方法を検討できる 3 研究結果をまとめ発表資料を作成できる 4 研究結果をわかりやすく報告できる						
回数	学習課題	内 容		方法	担当教員		
1, 2	研究プロセスの理解	研究の意義と重要性 研究の目的と方法 データの収集 研究の進め方 研究の考察 文献の検索の必要性と方法		講義	専任教員 (北川洋哉) 専任教員 (野津尚哉)		
3, 4 5, 6 7, 8 9, 10 11, 12	研究の実際	研究計画書の作成 実験・データの収集 抄録・スライドの製作		演習			
13, 14 15	発表の必要性と方法 研究報告会と振り返り	発表原稿の作成・報告会の運営 講評 評価		評価			
評価方法	作成した抄録と発表原稿および発表および報告会の運営（80%） 取り組み姿勢（20%）について評価する						
参考文献と資料	使用するスライド資料を配布						
事前準備や受講要件等	必要に応じてプロジェクターを用意 研究計画書および使用する器材のリストを提出 研究抄録および発表原稿の提出を指定日までに提出する						
☆担当教員の実務経験	① 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする ② 歯科技工士として医療機関に勤務した経験を活かした授業展開をする						